

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.7.20-26

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:8 まず第一に、あなたがたすべてのために、私はイエス・キリストによって私の神に感謝します。それは、あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられているからです。

1:9 私が御子の福音を宣べ伝えつつ霊をもって仕えている神があかしてくださることで、私はあなたがたのことを思わぬ時はなく、

1:10 いつも祈りのたびごとに、神のみこころによって、何とかして、今度はついに道が開かれて、あなたがたのところに行けるようにと願っています。

1:11 私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでもあなたがたに分けて、あなたがたを強くしたいからです。

1:12 というよりも、あなたがたの間にいて、あなたがたと私の互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。

1:13 兄弟たち。ぜひ知っておいていただきたい。私はあなたがたの中でも、ほかの国の人々の中で得たと同じように、いくらかの実を得ようと思って、何度もあなたがたのところに行こうとしたのですが、今なお妨げられているのです。

1:14 私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならない負債を負っています。

1:15 ですから、私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。

1:16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力で

1:17 なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。

パウロはローマのクリスチャン達を愛していましたが、それは人情よりも、主の使命によるのです。またはその愛情ゆえに主からの使命を受け取り、それを第一にしました。

その使命とは「返さなければならない負債を負って」いるということ、すなわち福音宣教の責任を負っているということです。

愛する人や大切な人のためには、何よりも救いのための負債があるのだということ、もっと自覚していきましょう。

また「福音を恥としない」で、むしろ誇りを持ちましょう。クリスチャンである自分を誇るものではありません。それは逆の気持ちにさえなるときがあるでしょうから。そうではなく、福音そのものに誇りを持つのです。またクリスチャンであることで萎縮する必要はありません。

イエス様は「わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」と言われました。周囲に配慮することは必要ですが、その上で、大きな顔をしてクリスチャンであることを知らしめましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。

1:19 なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

1:21 というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。

1:22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、

1:23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。

1:24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。

1:25 それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。

神を認めない人には、やはり責任があります。神を知らないからしょうがないというのではなく、被造物によって、神を知ることができるはずだということです。それで神を認めないなら、その不信仰は

人の責任であるということです。

神を信じない人、または神の存在を信じつつも神に従わない人は、結局自分の欲望に従ってしまいます。偶像礼拝とは、実は自分の欲望を礼拝することになるのです。その結果、サタンがその欲望を利用して、思いのままに人を操るのです。人は自分のために信仰しているようで、実はサタンに動かされてしまいます。

愛する人々が、サタンのゆえに滅びにいかないように、私たちは愛をもって、伝道しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、

1:27 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうして情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行なうようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。

1:28 また、彼らが神を知ろうとしがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。

1:29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、

1:30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、

1:31 わきまえない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。

1:32 彼らは、そのようなことを行なえば、死罪に当たるという神の定めを知っていながら、それを行なっているだけでなく、それを行なう者に心から同意しているのです。

神を認めないということは、自分を神の代わりにしているということです。ですから自分が主です。その結果、自分の欲望が主になってしまうという現実があります。ですから神を認めないということは、欲望ゆえに罪に陥るのです。「恥ずべき情欲に引き渡されて」しまうのです。

神を信じるかどうかは本人に委ねられています。だからといって、信じなくてもよいというのではなく、信じなければ罪に陥るのだということを、認め

ざるを得ません。

信仰は自由だからといって、愛する人に伝道しないのは、単なる言い訳にしか過ぎません。自由だからこそ、その人が自ら信じられるように、愛をもって心を砕いて伝道するのです。救いのために祈りましょう。今は何ができるでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



- 2:1 ですから、すべて他人をさばく人よ。あなたに弁解の余地はありません。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。さばくあなたが、それと同じことを行なっているからです。
- 2:2 私たちは、そのようなことを行なっている人々に下る神のさばきが正しいことを知っています。
- 2:3 そのようなことをしている人々をさばきながら、自分で同じことをしている人よ。あなたは、自分は神のさばきを免れるのだとも思っているのですか。
- 2:4 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。
- 2:5 ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。
- 2:6 神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。
- 2:7 忍耐をもって善を行ない、栄光と誉れと不滅のものを求める者には、永遠のいのちを与え、
- 2:8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。
- 2:9 患難と苦悩とは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、悪を行なうすべての者の上に下り、
- 2:10 栄光と誉れと平和は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、善を行なうすべての者の上にあります。
- 2:11 神にはえこひいきなどはないからです。

前節ではパウロは、神を神としてあがめない者の罪について語っています。神をあがめない者は、結局自分自身の欲望によって生きるので、罪に陥ってしまうということです。そこには自己中心という問題が根深く横たわっています。

そこで次は「他人をさばく人」の自己中心について、パウロは問題にしています。他人をさばく人は自己中心です。また自分が見えていない人です。すなわち、自分は正しい思い込んでいるので、他の人をさばくのです。

しかし、実は自分自身が罪を犯しているのです。自分で自分をさばいているのと同じなのです。どんなに他人をさばいて、自分は正義感がある者であろうとしても、神の前には罪人である以上、さばかない人よりもっと悪いことになってしまいます。

私たちも、神様に従っていないとしたら、無意識でも意識的にでも、神様に逆らっているのですから罪を犯していることになります。他人をさばくことはやめましょう。私たちはもう十字架で罪が赦されているのですから、そのことの感謝によってまた新しく生まれたその価値観によって歩みましょう。その感謝と価値観は聖霊様によって与えられます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:12 律法なしに罪を犯した者はすべて、律法なしに滅び、律法の下にあって罪を犯した者はすべて、律法によってさばかれます。

2:13 それは、律法を聞く者が神の前に正しいのではなく、律法を行なう者が正しいと認められるからです。

2:14 ・・律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じる行ないをするばあいは、律法を持たなくても、自分自身が自分に対する律法なのです。

2:15 彼らはこのようにして、律法の命じる行ないが彼らの心に書かれていることを示しています。彼らの良心もいっしょになってあかしし、また、彼らの思いは互いに責め合ったり、また、弁明し合ったりしています。

・
2:16 私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れたことをさばかれる日に、行なわれるのです。

すべての人が神様の前には罪ある者なので、そのことをパウロは明かにしていきます。当時ユダヤ人は、自分たちは特別なので罪はないと思っていました。しかしパウロは「神にはえこひいきなどはない」と語ります。

同じようにクリスチャンであっても、つまり神の子としていただいた者でも、罪は罪です。クリスチャンだから大目に見てもらえるということもないのです。

しかし、クリスチャンは新しく神から生まれたものなので、神の価値観に従いたいという思いが与えられています。神様に逆らい続けると苦しくなり、やはり神に従いたいという思いが出てくるのが自然なのです。

「生まれつきのままの律法」と言われる、良心も

また主のみこころです。「律法を行う者」でありましょう。かつては「神のさばき」にあうべき者でしたが、今は十字架によって赦されて新しく生まれたものですから、その確信を持しましょう。そして主に従うことが最も嬉しいことなのだという確信を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:17 もし、あなたが自分をユダヤ人ととなえ、律法を持つことに安んじ、神を誇り、
2:18 みこころを知り、なすべきことが何であるかを律法に教えられてわきまえ、
2:19 また、知識と真理の具体的な形として律法を持っているため、盲人の案内人、やみの中にいる者の光、愚かな者の導き手、幼子の教師だと自任しているのなら、
2:20 前節に合節
2:21 どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。
2:22 姦淫するなど言いながら、自分は姦淫するのですか。偶像を忌みきらいながら、自分は神殿の物をかすめるのですか。
2:23 律法を誇りとしているあなたが、どうして律法に違反して、神を侮るのですか。
2:24 これは、「神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中でけがされている。」と書いてあるとおりです。
2:25 もし律法を守るなら、割礼には価値があります。しかし、もしあなたが律法にそむいているなら、あなたの割礼は、無割礼になったのです。
2:26 もし割礼を受けていない人が律法の規定を守るなら、割礼を受けていなくても、割礼を受けている者とみなされないのでしょうか。
2:27 また、からだに割礼を受けていないで律法を守る者が、律法の文字と割礼がありながら律法にそむいているあなたを、さばくことにならないでしょうか。
2:28 外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割礼なのではあ

りません。

2:29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。

ユダヤ人は神の民だから、他の民族のように汚れていないと信じ込まれていました。しかしパウロはそれであったも、罪は罪なのだ指摘します。

すなわち彼らは信仰があるからと安心して、罪を犯しても何も感じなくなっていたのです。「盗み」「姦淫」「違反」などです。信仰は外見や立場ではありません。年数でもありません。

私たちも救われているということに安心して、神様に従わないなら、ここに警告されているユダヤ人と同じになってしまいます。

心の内に、そして個人的な行いに、自分自身の信仰が表れているか、よく吟味しましょう。必要があれば、謙遜に足りなさや間違いを認めて、聖霊によって自分を変えていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:1 では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。

3:2 それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおこばをゆだねられています。

3:3 では、いったいどうなのですか。彼らのうちに不真実な者があったら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるのでしょうか。

3:4 絶対にそんなことはありません。たとい、すべての人を偽り者としても、神は真実な方であるとすべきです。それは、「あなたが、そのみことばによって正しいとされ、さばかれるときには勝利を得られるため。」と書いてあるとおりです。

3:5 しかし、もし私たちの不義が神の義を明らかにするとしたら、どうなるでしょうか。人間的な言い方をしますが、怒りを下す神は不正なのでしょうか。

3:6 絶対にそんなことはありません。もしそうだとしたら、神はいったいどのように世をさばかれるのでしょうか。

3:7 でも、私の偽りによって、神の真理がますます明らかにされて神の栄光となるのであれば、なぜ私がなお罪人としてさばかれるのでしょうか。

3:8 「善を現わすために、悪をしようではないか。」と言ってはいけないのでしょうか。・・・私たちはこの点でせしめられるのです。ある人たちは、それが私たちのことばだと言っていますが、・・・もちろんこのように論じる者どもは当然罪に定められるのです。

ユダヤ人に罪があるのなら、彼らに律法を与えたことに意味があったのか…という問題にパウロは答えています。それは神の真実が表れたのだというのです。

しかしそこで新たな問題が生まれます。すなわち、意味があったのならユダヤ人の罪も神の役にたったのではないか…という反論です。

それに対してパウロは、「絶対にそんなことはありません。もしそうだとしたら、神はいったいどのように世をさばかれるのでしょうか。」と答えを与えます。

もしも罪を犯すことで神の義が明かにされるのであれば、罪も良いことになってしまいます。それは詭弁です。「もちろんこのように論じる者どもは当然罪に定められるのです。」

自分の罪を認めたくない人は、このようにあらゆる弁解や詭弁を産み出しますが、それらは神の前にはすべて成り立ちません。素直に自分の罪を認める人が救いに近い人であり、私たちはそのようにして救いの憐れみをいただいたのですから、これからも罪を認める謙遜さを持って行きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

